『LLFA 製品　推奨施工方法』

『プラグレセップ絶縁・防水施工編』

マテックス株式会社

平成 22 年 6 月

『目次』

『始めに』

ＬＬＦＡテープは、絶縁・配管の漏れ修理・防食に使用する、接着剤を一切使用していない自己融着型テープです。
粘着成分が含まれる既存の自己融着絶縁テープとは取り扱い方法が異なりますので、ご使用前に、製品に同封されている取扱説明書を必ずお読みください。

『作業を始める前に』

ＬＬＦＡテープはホコリやゴミ、手・指に汚れやオイルが付いているとテープとテープの間に入り、融着が妨げられ十分な効果を得られませんので、必ずキレイな手で使用してください。
※姉妹品、絶縁パテ（ＬＬＦＡスムース）も同様です。

『作業に関して』

絶縁及び取り外しの作業は、必ず決められた安全処置を行ってから作業をしてください。

『保管について』

ＬＬＦＡテープを保管する場合、ゴミや汚れが付着しないよう、付属のビニール袋で空気を抜いて密栓し、箱に入れ直射日光を避けてください。

作業を行う前に、必ず取り扱い説明書を読んでから作業を行ってください。
基本的な製品の取り扱い方法や注意事項を良く読み、製品特性を理解し作業を行ってください。

製品 VTR もご用意しておりますので､取り扱い説明書及び推奨施工方法と合わせてご覧いただく事で、製品に対する理解をより深めて頂く事が出来ます。

VTR は当社ホームページからご覧いただけます。
『http://www.matex-tokyo.co.jp/llfa』

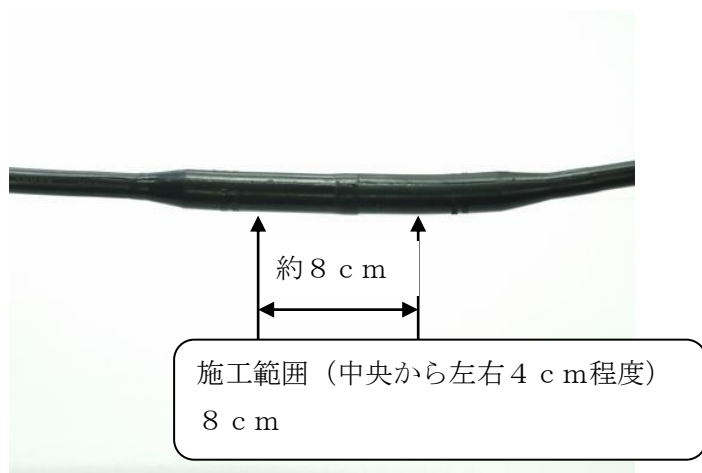
『ＬＬＦＡテープのプラグレセップへの施工方法』

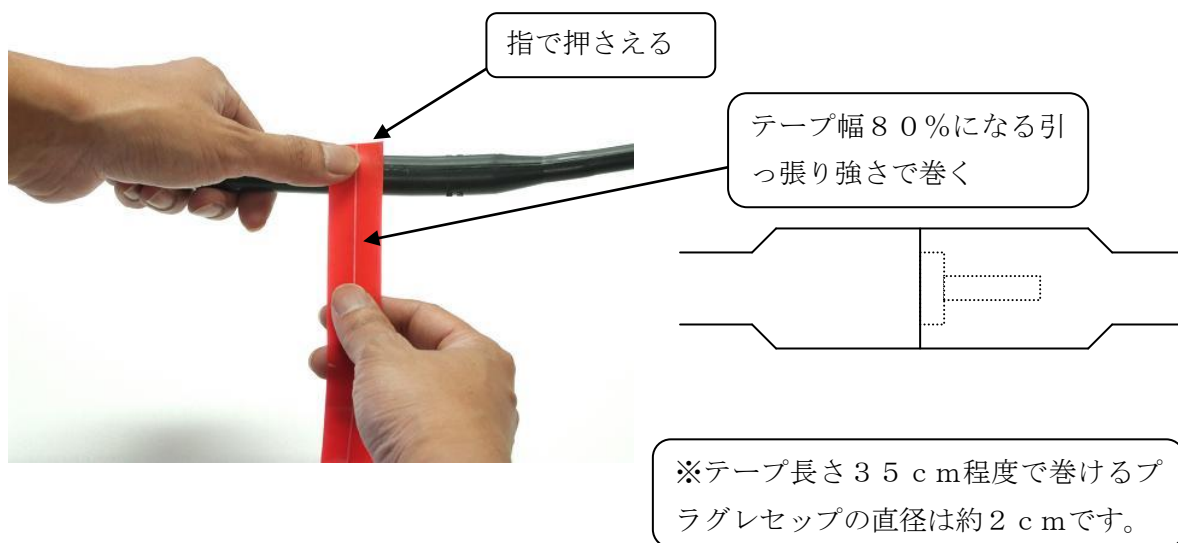
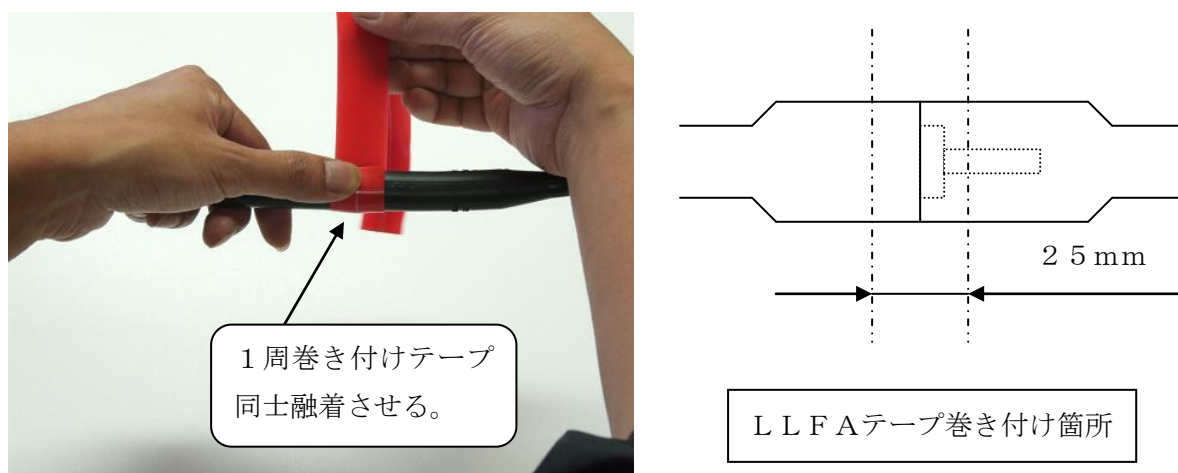
プラグレセップへの絶縁・防水処理方法

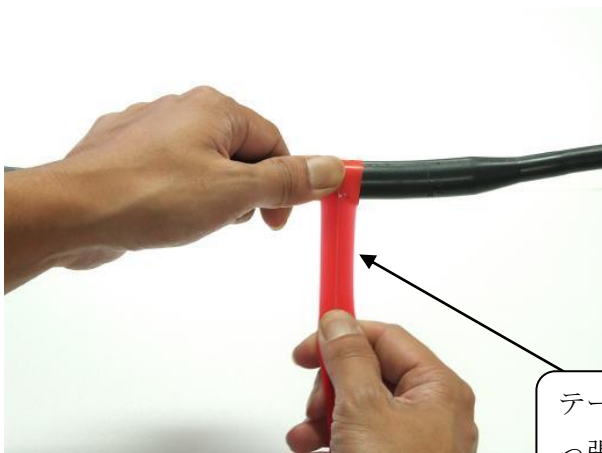
巻き付けはプラグレセップ中央部分から行い、最初の１周は緩く巻き付けます。
２週目からは強く引っ張りながら巻き付け、ラップ幅を少なめに巻き広げていきます。
中央から４ｃｍ程巻き広げた後、被覆との境目は防水巻きを行います。
端子中央部を通り、反対側の被覆との境も防水巻きを行い中央まで戻り巻き付け終了。

作業は基本的にテープのみで可能ですが、ケーブルの状態によってはバリなど大きな段差がある場合、姉妹品の絶縁パテ、LLFA スムースを併用し施工を行ってください。

！注意！
同じハンドホール内に LLFA テープを巻き付けたケーブルがある場合、テープ同士が融着してしまう場合があります。そのような条件の場合には LLFA テープの上にビニルテープなどを巻き付けて、LLFA テープ同士融着させないよう処理を行ってください。

１．【作業の前に】
ケーブル接続部の汚れなどを拭き取っておきます。汚れや他のテープ・ノリなどが残っていると防水性能が達成できない場合があります。

2．【接続部の巻き付け】

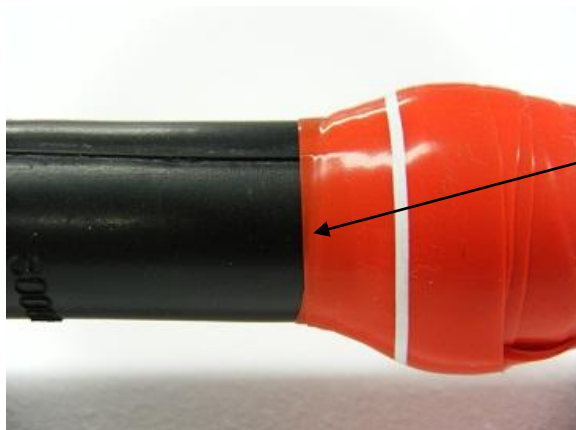
テープを３５ｃm程度ロールから切り出し、ケーブル接続部から巻きつけを行います。（プラグレセップの太さによって必要な長さが変わります。太い場合は LLFA テープも長く必要になりますが、作業しにくい場合には使いやすい長さのテープを複数回に分けて施工することも可能です。）

テープの端を押さえながら、最初は軽く引っ張りながら（テープ幅が通常の８０%位になる引っ張りで）１周巻きつけ、テープ同士を融着させます。

３．【防水性能を持たせた巻き方】

２周目からは、テープの幅が半分以下になるまで、強く引っ張りながら巻きつけます。
（強く引っ張る事で最初に緩く巻き付けたテープをプラグレセップへ押し付け水が浸入することを防ぎます。）

テープ幅半分以下になるまで強く引っ張りながら巻き付ける。

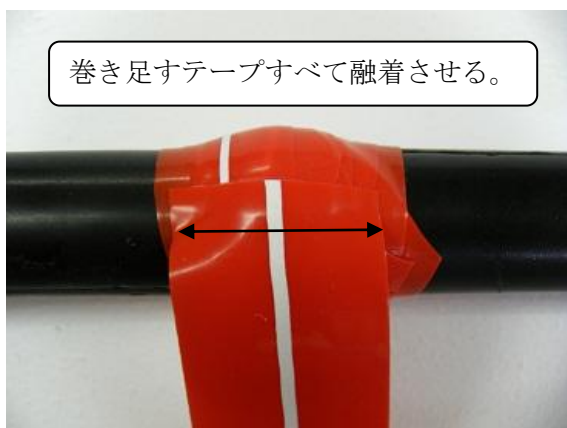
３周目以降は、２ｍｍ～４ｍｍずらしながら巻き広げを行います。
右側に４周ほど巻き広げその後左側に戻りそのまま巻き広げて行きます。
巻き終わりは中心部に戻り、作業完了です。

※ラップさせる方向などは最終ページの図も合わせてご覧ください。

<u>被覆との境目</u>

被覆との境目は２周以上巻き重ねを行ってください。
境界の処理が不十分だと水が入り込む恐れがあります。

<u>テープの長さが足りない場合</u>

巻き付け中にテープが足りない場合は巻き足す事が出来ます。
テープの巻き終わりはテープ側へ少し戻して融着させます。

巻き足すテープの端は巻いてあるテープの上にすべて融着させてください。

４．【作業完了】

施工が終わりましたら、一度巻き付けたテープを包み込むように強く握り、融着度合いを更に高める作業を必ず行ってください。

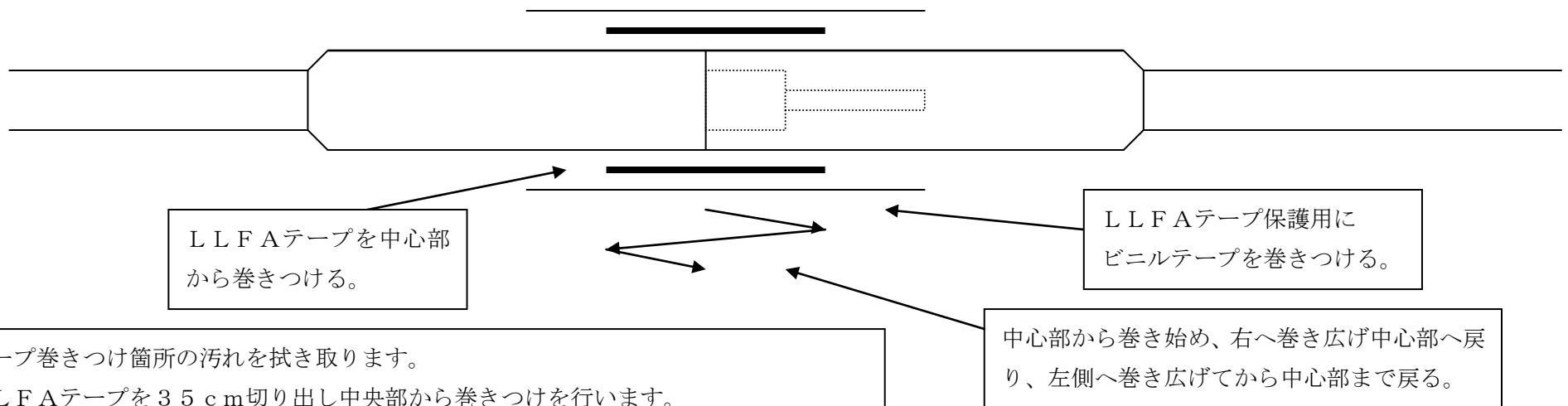
ＬＬＦＡテープ巻きつけ後は､他のLLFAテープを巻き付けたケーブル同士の融着を防ぐ、機械的強度を高める為にビニルテープの巻き付けを行ってください。

【防水処理に関して】

ハンドホール内の環境が特に劣悪な場合などは、防水性能を発揮させる為に両端部分の被覆との境目の処理はきちんと行ってください。
テープの引っ張りが不十分な場合、テープと被覆の間で毛細管現象などが発生し、水を中に導いてしまう可能性があります。
被覆との境目は、テープ幅が半分以下になるまで引っ張り、しっかりと２周以上巻きつけを行ってください。

５．【テープを取り外す場合】

テープを取り外す場合は、刃物などで切る事で容易に外す事が出来ます。
カッター等で切る場合、刃を押し当てそのまま押し込む事でLLFAテープを裂き、テープの張力で刃を押し込んだ場所から広がって裂けていきます。
あまり強く押し込んだり、端から切り裂くとケーブルに傷をつけてしまう恐れがあるので取り外す際は十分注意して行ってください。

『プラグレセップ接続部、ＬＬＦＡテープ施工方法』

テープ巻きつけ箇所の汚れを拭き取ります。
ＬＬＦＡテープを３５ｃｍ切り出し中央部から巻きつけを行います。
最初の１周は緩く巻きつけ（テープ幅が８０％位になる引っ張りで)、その後強く引っ張りながら（テープ幅が半分以下になる引っ張りで）巻きつけます。
中心部から右側に４周ほど巻きます。端は２周巻き付けを行います。
そこから中心部を通り反対側も中心から４周巻きます。端は２周。
中心部まで戻り終了。
ケーブルにバリなどの段差がある場合には、姉妹品の絶縁パテＬＬＦＡスムースの併用をお勧めします。